



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」（仮）

空想靈武劇[®]
鬼神童女遊侠伝[®]／狸男の股間使の野望

作・民富田智明



○ 物語内容

【背景設定】

件」の後、関東脅征会の報復によって両親を亡くし、両親の仇を討った恋人の間原堅次郎の家に身を寄せていた。

堅次郎は、清子の心傷を和らげようと、アイドルに憧れる清子をインターネットアイドルとして活動させることにした。

最初は清子一人で活動していたが、清子を慕う近所の小学生の小鳥遊爽子と澄子の姉妹が仲間に入り、三人で活動するようになった。

【本編内容】

かつて鬼姫山のお凜様が倒した妖賊狸男「早抜きの股間使郎」の子孫が、新たに「早抜きの股間使郎」を名乗り、「関東股間使隊」を結成して、数百年の時を超えてお凜様への報復を企てていた……。



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

ある日、清子たちが公園でダンスの練習
をしてしていると、股間使郎が出現して襲いか
かってきた。股間使郎は、堅次郎に重傷を
負わせ、爽子と澄子を人質にし、清子をそ
の場で辱めようとした。
そこに、鬼姫山のお凜様が駆けつけて、
牙吉飛丸と共に、正義の刀を抜いた。お凜
様は股間使郎の手下を蹴散らす、股間使
郎は爽子と澄子を連れて逃走した。
お凜様は、深手を負った堅次郎を霊泉酒
で治癒し、「白馬の王子」の精神的後遺症
に襲われた清子を霊竹笛で慰癒した。
お凜様は、爽子と澄子の救出のため、股
間使郎の討伐を決意した。清子は、お凜様
との同行を志願した。お凜様は危険なため
反対するが、清子には、恋人の堅次郎に重
傷を負わせ、幼い爽子と澄子を誘拐したこ
とへの強烈な怒りがあった。お凜様は、清
子の中に義侠心を見出し、清子を依代とし
て同化させることにした。



清子は、「鬼神童女変化」の能力を獲得し、衆生救済のために圧倒的武勇を行使する事ができる力を得て、代償として、圧倒的苦痛も受忍しなければならぬ体となつた。

堅次郎は、お凜様と同化した清子の支援のため、妖賊に立ち向かえる刀と銃を授けられた。

清子と同化したお凜様は、股間使郎の潜伏先に踏み込み、股間使郎との死闘の末、股間使郎を倒した。

だが、大将だと思つた股間使郎は、実は複製された影武者でしかなかつた。

股間使郎の影武者は、「股間使隊による天下布武、狸を頂点とする強姦大国の樹立」を宣言し、消滅した。

お凜様は清子に戻り、爽子と澄子連れ、堅次郎と一緒に帰っていった。



「鬼神童女遊俠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

間使隊の頭領。お凜様が倒した早抜き	早抜き	ルユニットを結成。堅次郎が好き。	アイドルに憧れる小学生。清子とアイド	小鳥遊澄子(9)歌うのと踊るのが好き	ルユニットを結成。堅次郎が好き。	アイドルに憧れる小学生。清子とア	小鳥遊爽子(9)歌うのと踊るのが好き	て「特攻戦士神風」になる。	手の現警備員。後にお凜様の託宣を受け	入間原堅次郎(39)清子の恋人。元運転	し、鬼神童女変化の能力を得る。	春小路清子(18)高校生。お凜様と同化	山鴉・夜鳴きの飛丸(?)お凜様のお供。	山狗・遠吠えの牙吉(?)お凜様のお供。	と暮らすようになる。	子と同化して、嫁兼姉兼妹として堅次郎	秩父鬼姫山三代目。堅次郎の守護神。清	鬼神童女・花吹雪のお凜(9)武州総鎮守	○登場人物
-------------------	-----	------------------	--------------------	--------------------	------------------	------------------	--------------------	---------------	--------------------	---------------------	-----------------	---------------------	---------------------	---------------------	------------	--------------------	--------------------	---------------------	-------



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

劣 股
化 間 駒
コ 使 四
ピ 郎 郎
ー の の
の 手 子
小 下 孫
狸 。（
？
） 戦
闘
員
。
股
間
使
郎
の



○ 山奥の森

お凜様の活躍を描く絵巻物の断片。

主題歌 「鬼神童女遊侠伝」

望」

題字 「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野

いた大活劇である」

る。この物語は、鬼姫山三神の激闘を描

賊』との戦いの様子が詳細に描かれてい

ある。そこには、『鬼姫山三神』と『妖

『武州鬼姫信仰』を知る唯一の手掛かりで

巻物が発見された。それは、失われた

語り 「『鬼神童女物語絵巻』という古い絵

さされている。

鳴天空飛翔大鴉神」という神号が記

遠吠猛牙突立大狗神」 「眷属神・夜

吹雪凜凜志乃大鬼姫神」 「眷属神・

山三神の凶像が描かれ、「主神・花

「鬼神童女物語絵巻」の断片。鬼姫

○ 絵巻物



て市街地が形成されている。川に沿っ
地を入間川が流れている。川に沿っ
遥かに雄大な秩父山地が広がり、平
○町の遠景
手下たち「栄光あれ！」
手下たちが抜刀する。
栄光あれ！」
股間使隊』を結成する。『股間使隊』に
きの股間使郎』と名乗る。ここに『関東
股間使郎「先祖の名を借りて、俺は『早抜
狸男が抜刀する。
しまおうではないか」
抜きの技をもって、襲って犯して殺して
討ち倒す時だ。鬼神童女を誘い込み、早
受け継がれている。今こそ、鬼神童女を
も殺された。だが、早抜きの技は脈々と
股間使郎「俺の先祖は、鬼神童女に無残に
下たちの前に立っている。
妖賊狸男・早抜きの股間使郎が、手



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

字幕 「令和年間。武州入間地方」

○公園

セーラー服を着た少女・春小路清子
(18)と、小鳥遊爽子(9)、小鳥遊澄子(9)が、音楽に合わせて
鳥遊澄子(9)が、音楽に合わせて
可憐に踊っている。
入間原堅次郎(39)が、清子たち
をビデオカメラで撮っている。
清子たちが踊り終える。
堅次郎 「カット！ オツケー！」

清子 「可愛く撮れてる？」

堅次郎 「最高だよ」

爽子澄子 「お兄ちゃん、ありがとう」

堅次郎 「写真も沢山撮っておこうね」

堅次郎がスチールカメラで清子たち
の可憐な姿を撮っていく。

清子(独白) 「私、春小路清子。どこにで
もいる普通の女の子。この人は、私のお
兄ちゃん、入間原堅次郎さん。何して



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

るって？ アイドル！ 私、小さい頃か
らアイドルに憧れてて、お兄ちゃんに手
伝っててもらって、インターネットで活動
を始めたの。この子たちは、近所の小鳥
遊爽子ちゃんと澄子ちゃん。最初は私一
人だったんだけど、一緒にやりたいって
参加してくれたの。今は三人で仲良く活
動してるよ。女の子三人に囲まれて、お
兄ちゃんも楽しそう」

堅次郎が撮影を終える。

堅次郎「いいのが一杯撮れたよ」

清子「もっと凄いことする？」

爽子澄子「ここからは非公開だよ？」

清子たちがスカートの裾に手をかけ
て、挑発的な仕草をする。

堅次郎「からかうな！」

堅次郎が片付け始める。

清子たちの悪戯な笑顔。

爽子澄子「お姉ちゃんって大胆！」

清子「爽子ちゃんと澄子ちゃんこそ！」



「鬼神童女遊俠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

堅次郎 「この子たちが清子たちに手を出すな！」

股間使郎 「こましてえ〜。こましてえ〜」

堅次郎 「な、なんだこいつら！」

清子 「きゃあああ！」

股間使郎 「小娘え、この俺が代わりに楽しんでやろうじゃねえか！」

股間使郎 「小娘え、この俺が代わりに楽し

突如、股間使郎率いる狸軍団が清子

たちの前に現れる。

その時。

子たちが女の会話をしている。

堅次郎に微妙に聞こえるように、清

腰。

股間使郎が抜刀し、堅次郎を容赦な

く叩き斬る。

堅次郎 「ぐああっ…」

堅次郎が倒れる。

清子 「きゃあああ！」

股間使郎が清子に迫る。



股間使郎「おめえ上物だな。この場でこま
してやろう」
股間使郎が清子を強引に取り押さえ
る。
清子「きゃ！」
爽子澄子「お姉ちゃん！」
股間使郎「おめえたちはお土産だぜ」
手下たちが爽子澄子を強引に取り押
さえる。
爽子澄子「きゃ！」
股間使郎が清子をおの場に押し倒し
て、刀を突き付けて馬乗りになる。
股間使郎「鬼神童女、出て来いよ！俺の
竿で突き破っちまうぜ！」
股間使郎が竿を出そうとする。
清子の息が荒くなっている。
爽子澄子「いやああ！」
清子「いやああ！」
その時。
銃声が響き、手下たちが次々と倒れ



る。
手下たちが増殖して斬りかかってくる。
股間使郎「やっちまえ！」
お凜様牙吉飛丸が抜刀する。
お凜様「なんだから、きさんは斬る！」
今こそ晴らしく、やねえか！」
股間使郎「出たな鬼神童女！先祖の恨み、はいかん。わしが成敗してくれる！」
力尽くで辱めようなど、決して許す訳に
お凜様「極悪非道な妖賊め、若き娘を襲い
飛丸「夜鳴きの飛丸参上！」
牙吉「遠吠えの牙吉参上！」
花吹雪のお凜参上！」
お凜様「武州総鎮守、秩父鬼姫山三代目、
（？）が、颯爽と現れる。
吉（？）、山鴉・夜鳴きの飛丸
のお凜（9）と、山狗・遠吠えの牙
清子たちの前に、鬼神童女・花吹雪
る。



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

お凜様 「うおおお！」

お凜様が股間使郎に斬りかかる。

清子 「確かめてみるか？」

股間使郎 「き、気持ち悪い！」

清子 「女装が趣味なだけだぞ。お前なんかより立派な物が生えてるんだぞ！」

股間使郎 「嘘だろ？」

清子 「ぼ、ぼくは男の子なんだぞ！」

股間使郎 「は？」

清子 「ぼくは男の子なんだぞ！」

押し倒されている清子……。

れで倒れている堅次郎、股間使郎に拘束されている爽子と澄子、血まみ

お凜様 「くっ……」

股間使郎 「圧倒的におめえが不利だぞ！」

お凜様 「次はきさんじゃ！」

股間使郎 「役に立たん奴らめ！」

いく。

お凜様たちが手下をバタバタ倒して



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

股間使 郎 「うおおお！」

股間使 郎 お凍様とお凍様と股間使郎の斬り合い。

股間使 郎 「うぐっ」

股間使 郎 が間合いを取る。

股間使 郎 「この決着は必ずつけてやる」

股間使 郎 は、爽子澄子を連れて、手

下と逃走していく。

爽子澄子 「きゃああ！」

お凍様 「待て！」

股間使 郎 「誰が待つかよ！」

股間使 郎 が拳銃を撃ってくる。

お凍様 牙吉飛丸が銃撃を避ける。

股間使 郎 がいなくなる。

お凍様 「くそっ」

お凍様が清子に駆け寄る。

お凍様 「大事ないか？」

清子 「お、お兄ちゃんが……」

お凍様 「まだ助かる！」



「鬼神童女遊俠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

お凜様 「ど、どうした？」

堅次郎 「フラッシュバックだ！」

お凜様 「わしが癒す！」

流麗な音色を奏でる。

お凜様が懐から霊竹笛を取り出し、

清子 「うっ！」

清子が頭を抱えてうずくまる。

お凜様 「あと少しでも遅けりゃ、間に合わんかった」

堅次郎が身を起こす。

清子 「お兄ちゃん！」

清子が堅次郎を抱きしめる。

お凜様 「う、うう…」

堅次郎の傷が治る。

お凜様 「鬼姫山の霊泉で作った酒じゃ。どんな酷い体の傷も治せる！」

気が上がる。

を振りかける。堅次郎の傷口から湯

ら下げた瓢箪水筒を手に取り、中身

お凜様が堅次郎に駆け寄る。腰にぶ



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

お凜様 「改めて名乗ろう。場所柄、神儀は略させてもらうが、わしは秩父鬼姫山の三代目、花吹雪のお凜じゃ。もう五百年くらい武州総鎮守として妖賊の監視を」とる」

牙吉 「おいらあ遠吠えの牙吉ってんだ」

飛丸 「あっしは夜鳴きの飛丸でやんす」

堅次郎 「人間原堅次郎です」

清子 「春小路清子です」

お凜様 「あん狸め、娘二人を連れ去りおった。あやつを追い払うだけで精一杯じゃった」

清子 「爽子ちゃん、澄子ちゃん！」

お凜様 「わしらは、あやつを倒して、あの子たちを取り返す！」

清子 「私も行きます！」

お凜様 「だめじゃ！危なすぎる！」

清子 「あの化け物、許せない……。私だけじゃない。私なんかより、私の大事な人



堅次郎 「清子……？」

清子は、牙吉と飛丸を鞆にぶら下げ
る。

する。

牙吉飛丸が小さなぬいぐるみに擬態
する。

牙吉飛丸 「よろしく頼みます。姐さん！」

光が消失すると、清子だけ残っていて
倒的苦痛も引き受けることになるぞ！」

しになる！ 圧倒的武勇の代わりには、
変化』と唱えれば、おぬしはいつでもわ
お凜様 「二本角の印契を結び、『鬼神童女
び、身も心も同化させるぞ！」

お凜様 「お凜様は、清子の両手を握る。
お凜様 「わしは、おぬしを依代として選
取った……」

お凜様 「あねえの強い思い、しかと受け
は、もう嫌なの……」

を奪おうとするのが許せない！ 失うの



「鬼神童女遊俠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

清子 「あの子たちを助けに行くわよ！」
堅次郎 「ああ……」

清子 「あの子たちが助けに行くわよ！」
堅次郎 「ああ……」

○公園の前の道路
清子 「疾風号のおお！」
清子と堅次郎が出てくる。
清子が叫ぶと、一台の白い車が走ってきて停まる。

○疾風号の車内
堅次郎が運転し、清子が助手席に乗っている。
清子 「牙吉、狸の逃げた方角はわかる？」
牙吉 「ああ、山の方だぜ。細かいことはわ



「鬼神童女遊俠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

るから大丈夫」

清子 「神々だけで通じる呼び名よ。誘導す

堅次郎 「コロコロ山？」

飛丸 「コロコロ山の辺りでやんす」

牙吉 「見つけたぜ」

子の鞆にぶら下がる。

牙吉と飛丸がぬいぐるみに戻り、清

○ 疾風号・車内

牙吉と飛丸が旋回して戻っていく。

牙吉と飛丸の前に目立つ山がある。

飛丸 「あの山が怪しいでやんすね」

牙吉 「臭いが強くなってきやがった」

丸が下界を探っている。

獣身の牙吉を背中に乗せた鳥身の飛

○ 上空

飛丸 「わかったでやんす」

清子 「飛丸、ちょっと探ってきて」

からん」



堅次郎 「ああ……」

清子 「無理、しないでね」

堅次郎 「よし……」

堅次郎 が拳銃と短刀を腰に差す。

清子 「神力を込めた特別な武器よ。妖賊に
対抗できるわ」

堅次郎 「なんで鞆にこんなのが？」

清子 が鞆から拳銃と短刀を取り出し
て堅次郎に渡す。

清子 「お兄ちゃん、これを使って」

清子と堅次郎が降りる。

疾風号が停まる。

○山の入口

○郊外の道路

疾風号が走っていく。

堅次郎 「少し飛ばすぞ！」

清子と堅次郎が山に入っていく。



○ 山奥の森

爽子と澄子が拘束されたまま地面に
放り出されている。股間使郎と手下
たちが取り囲んでいる。

股間使郎「おめえらは鬼神童女を誘い出す
餌だ。まだ何もしねえから安心しな」

股間使郎「あいつを倒したら、じっくりと
こましてやるぜ」

爽子と澄子の顔が引きつる。

清子の声「その子たちを放しなさい！」

股間使郎「ん？」

清子と堅次郎が股間使郎の前に現れ
る。

爽子澄子「あっ！」

股間使郎「おめえ、さっきの女装野郎じゃ
ねえか！」

清子「あんなの、あなたから離れるための



「鬼神童女遊俠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

嘘よ！」
股間使郎「騙しやがったのか！ 教育の足
りねえ奴め！」
清子「あんたが教育を語る資格ないわ
よ！」
股間使郎「飛んで火に入る夏の虫とはこう
いうことだ。大した勇氣だが、使うところ
ろを間違えてるぜ。おめえからこまして
やる」
清子「今の私は、さっきの私とは違うわ
よ！」
清子は、両手で二本角の印を結ぶ。
清子「鬼神童女変化！」
清子が閃光に包まれ、一瞬にしてお
凜様に变化する。左右には人身の牙
吉飛丸が立っている。
股間使郎「なっ、鬼神童女！」
お凜様「わしをこませるもんなら、こまし
てみよ！」
お凜様が抜刀し、牙吉飛丸が抜刀す



お凜様 「わしらが敵を引きつける！ あに

爽子澄子 「助けてええ！」

子を連れて森の奥に逃げていく。

自動小銃を持った手下が、爽子と澄

ろたえている。

堅次郎は、壮絶な斬り合いの前にう

てくる。

手下が次々と増殖しては斬りかかっ

斬っていく。

牙吉飛丸が散開して、手下を叩き

いく。

お凜様が手下をバタバタ叩き斬って

お凜様 「うおおお！」

手下たちが斬りかかってくる。

股間使郎 「やっちまえ！」

股間使郎と手下たちが抜刀する。

ぜ！」

待ち構えてたんだ。その首はねてやる

股間使郎 「こちら、おめえを倒すために



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」(仮)

お凜様 「うおおおお！」

股間使 拳銃が股間使郎の手から落ちる。

お凜様が刀を構える。

股間使郎が刀を構える。

き刺さる。

短刀が股間使郎の拳銃の持ち手に突

お凜様 「うぐっ！」

お凜様が短刀を抜いて投げつける。

弾かれる。

お凜様に弾が当たり、さらに拳銃が

股間使郎が銃撃を避ける。

ちまくる。

股間使郎がお凜様を狙って拳銃を撃

股間使郎 「やりやがったな！」

股間使郎 「うぐっ！」

股間使郎が向き直る。

股間使郎に弾が当たる。

ちまくる。



股間使 郎「うおおお！」
う。
力比べ。
股間使郎がお凜様を突き放し、重い蹴りを入れる。
お凜様が吹っ飛ばすように間合いを取る。
股間使郎が短刀を抜いてお凜様に投げつける。
短刀がお凜様に突き刺さる。
お凜様「うぐっ！」
股間使郎がお凜様を叩き斬る。
お凜様「ぐああああ！」
お凜様が倒れる。
牙吉飛丸「姐さん！」
牙吉と飛丸が、手下を蹴散らして、股間使郎に向かっていく。
牙吉飛丸「うおおお！」
牙吉飛丸が股間使郎に斬りかかる。



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

股間使郎「男の値打ちは巨大な竿と飛び出
か：：」
お凜様「きさんに、あにいの何が分かる
ぜ！」
のために体張ってるとしたらお笑いだ
めえの何がそうさせたんだ？あんな男
い苦痛を味わうことにならなてな。お
したがために、この世のものとも言えな
股間使郎「かわいそうに。鬼神童女と同化
起こす。
股間使郎がお凜様をつかんで、引き
ていく。
股間使郎が、倒れたお凜様に近づい
牙吉飛丸「ぐあああ！」
牙吉飛丸が倒れる。
斬る。
股間使郎「うおおお！」
股間使郎が牙吉飛丸を一振りで叩き
避け、受け流していく。
股間使郎が牙吉飛丸の激しい斬撃を



す汁よ。最期の楽しみに、鬼神童女もろ
ともおめえを壊れるまでこましてやる
よ。喜びな」
お凜様 「変態め……」
股間使郎 「黙れよ」
股間使郎がお凜様に刀を突き刺す。
お凜様 「ぐあああ！」
お凜様 「き、清子……！」
堅次郎がうろたえる。
清子（独白） 「お兄ちゃん……」
爽子と澄子が手下に連れられどんど
ん離れていく。
お凜様 「あの子たちを頼む！」
堅次郎は、爽子と澄子を、追っ
てい
く。
股間使郎は、突き刺した刀を引き抜
いて、お凜様を叩き斬る。
お凜様 「ぐあああ！」
お凜様が倒れる。
堅次郎が爽子と澄子と追いかける。



お凜様 「あにい、でかしたぞ……」

いる。

お凜様が必死に立ち上がろうとして

だ！」

堅次郎 「爽子ちゃんと澄子ちゃんは無事

爽子澄子が堅次郎に抱きつく。

堅次郎が爽子澄子の拘束を解く。

爽子澄子 「うん！」

堅次郎 「怪我はないか？」

爽子澄子 「お兄ちゃん！」

堅次郎が爽子澄子を抱き留める。

手下は短刀が突き刺さって倒れる。

堅次郎が短刀を抜いて投げつける。

手下が自動小銃を撃ってくる。

堅次郎が拳銃を撃つ。が、弾切れ。

手下の一人が被弾して倒れる。

堅次郎が拳銃を撃つ。

「うおおお！」

撃ってくる。

手下たちが振り返り、自動小銃を



股間使 股間使 股間使 股間使
「俺の狙いは、おめえの首だ！」
「首筋に刀を当てる。」
「離れた首で、たっぷり竿を啜え
込みやがれ！」
股間使 股間使 股間使 股間使
「うおおお！」
「一瞬早く、股間使郎の股
間」に思い切り拳を叩き込む。
「ぐあああ！」
「股間使郎を叩き斬り、蹴
り飛ばす。」
「股間使郎が倒れる。」
「股間使郎がよろよろと立ち上がるう
を飲む。」
「股間使郎がよろよろと立ち上がるう
とする。」
「お凜様が駆け出し、納刀して居合の
姿勢になる。」



お凜様 「まさか、あやつの子孫……」

お凜様が納刀する。

血飛沫を上げて倒れる。

股間使郎は、花吹雪のように大量の

だ。覚えておけよ！」

う……。俺の名は『早抜きの股間使郎』

東股間使隊』は何度でも現れるだろ

支配する強姦大国を樹立するまで、『関

じゃねえ……。おめえを倒して、狸が

股間使郎「残念だったな……。俺は本体

股間使郎「うぐっ！」

股間使郎がよろよろと後退する。

股間使郎が脳天から叩き斬られる。

お凜様 「うおおお！」

お凜様が思い切り刀を振り下ろす。

股間使郎「くそがつ！」

お凜様 「必殺花吹雪！」

まれる。

お凜様が抜刀すると、刀が閃光に包

お凜様が高く跳躍する。



堅次郎 「ああ……」

清子 「ずっと、そばにいてね……」

清子 (独白) 「私、スーパードロインになっちゃった」

清子が、堅次郎と寄り添って歩き出す。爽子と澄子がついていく。

擬態する。

と清子のもとに戻り、ぬいぐるみに牙吉と飛丸が立ち上がり、よろよろと清子と澄子が清子に抱きつく。

爽子澄子 「お姉ちゃん！」

お凜様が清子に戻る。

堅次郎はお凜様を抱き留める。

堅次郎 「清子……」

お凜様 「あにい……」

寄る。

お凜様が、よろよろと堅次郎に歩み

堅次郎に連れられて、爽子澄子がお凜様のもとに来る。



「鬼神童女遊侠伝／狸男の股間使の野望」 (仮)

○
公
園

終幕主題歌挿入「鬼姫音頭？」。
小さいお凜様が中心となつて、清子、
爽子、澄子が、音楽に合わせて可憐
に踊っている。壮絶な死闘が嘘のよ
うに。

完